

**We love books!**

**Let's go to the library!!**



『怪盗クイーン、仮面舞踏会にて ピラミッドキャップの謎 前編』 はやみねかおる/著 講談社 2008年

ハ

怪盗クイーンが狙う次なる獲物は人智を超えた秘宝、ピラミッドキャップ！けれど、クイーン逮捕を目論む探偵卿たちや師匠である大怪盗皇帝、その上、謎の組織ホテルベルリンまで出てくる始末。人々の思惑が交錯した舞踏会、本当にピラミッドキャップは盗めるのか！？分厚さを感じさせないテンポの良さ、後編と合わせて一気に読みたくなる一冊です。

『フリーター、家を買う。』 有川浩/著 幻冬舎 2009年

こんな会社なんかより、もっと自分を必要としてくれる会社があると思入社3ヶ月で辞めた俺。なのに、就職活動はうまくいかず、気がつけばフリーターになって1年。今の俺は、自堕落な日々を送っている。そんな時、母さんが重度の“うつ病”だと診断される！原因は、この町の人たちによるいじめ。母さんの病気を良くする唯一の方法は、この町から引っ越すことだ。俺は、正社員になってお金を貯め、家を買うことを決心する。

主人公が一念発起して、家族のために奮闘するところが読みどころ。その姿に心を打たれます！！



913.6

アrika

913.6

オノ

『月の影 影の海上 十二国記』 小野不由美/著 講談社 1992年



学校に突然現れた謎の男により、連れ去られた陽子。辿り着いた場所は見知らぬ土地、見知らぬ世界だった。連れて来られた理由を知るため、陽子は旅をする。十二国記シリーズ第一作目。自分とは何か。他人を信じるとは何か。異世界で何度も心が揺らいでは不安になり、時には逃げ出してしまうことがあっても、自身の目的の為に進み続ける陽子の思いの強さに自然と読み進めてしまいます。ファンタジーですが、政治や人種差別といった重いテーマを描いているのも特徴です。重厚に練られた幻想世界を主人公と共に浸ってみてはいかが

「おもしろい本が読みたい！けれど、どれがおもしろいのかな？」  
YAコーナーに置いてある中でもおススメの作家さんの作品を紹介します！  
面白さは木の図書館YA担当、おすみつき！  
さぁ、お気に入りの見つけてみよう！

『謎解きはディナーのあとで』 東川篤哉/著 小学館  
2010年

913.6

ヒカシ



新米刑事・宝生麗子は、世界屈指の財閥“宝生グループ”の総帥の娘。このことは、警察内部のごく少数しか知らない。仕事が終わって帰宅すると、普段のセシブなお嬢様に戻り、贅沢なディナーを堪能する。麗子は捜査に行き詰ると、必ず執事の影山に事件の概要を話す。すると、影山は麗子にダメだし。頭に来る麗子だが、影山は事件を鮮やかに解決してしまうのであった！普段の影山は有能な執事としてお嬢様にお仕えしているけれど、事件が関わると毒舌な探偵執事になる！という二面性が表れ驚いてしまいます。

『しゃばけ』 畠中恵/著 新潮社刊 2001年

913.6

ハタケ

薬問屋の跡取り息子で体の弱い「若だんな」。ある日、人目を忍んで出掛けたところ人殺しを目撃してしまい……。「若だんな」と彼を取り巻く妖(あやかし)たちは事件の推理をはじめめる。しゃばけシリーズ第一作目。この「若だんな」、出てくる妖怪に過保護すぎるほど甘やかされています。また、そんな彼に仕えている(甘やかしている)手代の2人(妖)がまた格好いい！ファンタジー時代物ですが、ミステリー初心者でも楽しめる推理小説でもあります。完璧でない人？々の勧善懲悪捕物帳、読むほど引き込まれてしまいます。続編も多数出ていますのであわせてどうぞ！



『バッテリー I』 あさのあつこ/著 教育画劇 1996年

ア



ピッチャーとしての才能に自信を持つ巧。春から通うことになった中学校の弱小野球部に入部し、全国大会に出場してみせると意気込む。そのためには、自分の速い球を受け止められるキャッチャーが必要だ。自分の球を、キャッチャー・原田豪が受け止めた。原田とならきっと最高のバッテリーが組めると思っていたところ、周囲の大人達に邪魔される。それに苛立ちを感じながらも、自分の野球をやろうとまっすぐでストイックな巧の姿勢が印象的です。野球がやりたくてやりたくてしょうがない気持ちが、読んでいると強く伝わってきます！